

農繁期 レポート 令和3年 7月号

エースファーム

オーナー 株式会社エース
水田面積 20.1アール
保証量 玄米 905kg
形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

今年の山陰地方の梅雨は大変な豪雨となりましたが、日南町は幸い被害もなく助かりました。そして7/13に長かった梅雨も明けて暑い日が続いています。ひと月前とは見違えるほど稲も生長し、いよいよ出穂期を待つばかりとなりました。出穂後のカメムシ被害を最小限に抑えるため、草刈りをしました。ほ場周辺もすっきりとして、風が稲にあたり爽やかさを感じます。日南町の夏は短いですが、8月はじめには稲穂も出そろい、秋を感じさせる風が吹き始めます。

7月の作業内容と稲の成長

1. 中干し (なかぼし)

6月下旬にピークを迎えた稲の生長(分けつ)を田んぼの水を抜いて、土にひび割れができるまで乾かすことを“中干し”と言います。この作業でしっかり乾かすことで稲の倒伏を防ぎ、稲刈り作業をしやすくする効果もあります。



2. 除草剤散布

雑草は病害虫よりは影響は小さいですが放っておくと一気に繁殖し、作物から水分・養分などを奪うため品質低下など大きな被害をもたらします。また病害虫の温床になるので田植え直後の散布で出てきた場合は、2回目を行います。



3. 冷水のかけ流し

穂が出て開花するまでが一番水を必要とします。また高温状態が続くと、白いお米の「高温障害」が発生する可能性があるため冷たい水を稲に掛け流し、地温を下げて稲の消費を抑えることで、品質低下の度合いを減らします。



4. 草刈り

5月～8月までに多い時は1水田に数回の草刈りを行っています。刈っても刈っても生えてくる草の生命力と農家さんは毎年闘っているのが現状です。遮るものが何もない水田での日中の草刈りは相当体力を使います。

